

Responding to cases of elder abuse requiring protection and separation: skills for specialists

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/45502

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 28 年 2 月 19 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1027022008

氏 名 大越 扶貴

論文審査員

主 査（教授） 北岡 和代 印

副 査（教授） 塚崎 恵子 印

副 査（教授） 表 志津子 印

論文題名 Responding to cases of elder abuse requiring protection and separation
: skills for specialists
(保護や分離を要する高齢者虐待事例対応に不可欠な専門職の技能)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

高齢者の家庭内虐待事例は 10%に生命危機があり、専門職は速やかに高齢者の保護や分離の必要性を判断しなければならない。本研究は、保護や分離が必要な高齢者虐待事例対応過程において不可欠な専門職の技能項目を提示することを目的とした。金沢大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した。研究は 3 段階で実施した。1 段階は、保護または分離を実施した 10 の虐待事例検討会の逐語録を質的に分析し、専門職の技能項目を抽出した。2 段階と 3 段階は、1 段階で抽出した技能項目を精選するため質問紙調査よりデルファイ法を 2 ラウンド実施し、各項目の重要度の合意を得た。2 段階の対象は、全国の地域包括支援センター 73 か所の 127 名のエキスパート(定期的に虐待事例検討会を実施して保護や分離の検討・実施の経験がある社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師等)であり、3 段階はそのうちの 97 名だった。分析の結果、60 技能項目が合意基準に達し、【アセスメント領域】と【保護や分離の検討と介入領域】に分類された。【アセスメント領域】は 4 つの中項目に分かれ、「高齢者の状態から生命危機を予測する技能」7 項目、「介護関連行為から高齢者の生命危機を予測する技能」8 項目、「虐待の事実と虐待との背景要因に関連する技能」10 項目、「家族の関係性をアセスメントする技能」7 項目の計 32 技能項目から構成された。【保護や分離の検討と介入領域】は 3 つの中項目に分かれ、「保護や分離の見解の一致を図る技能」8 項目、「保護や分離に向けての体制形成を図る技能」10 項目、「保護や分離のための介入に関する技能」10 項目の計 28 技能項目から構成された。【アセスメント領域】は高齢者の生命危機を予測し保護や分離を判断するために必要な技能項目であると考え、【保護や分離の検討と介入領域】は関係職種間で保護や分離の見解の一致を図りながら、体制を形成し介入するために必要な技能項目であると考え。

【審査結果の要旨】

本研究は緻密な研究計画のもとに実施して重要な知見を示したものであり、独創性が極めて高く、国内外の様々な実践において有用である。公開審査では、対象の選出、合意の判断基準、結果の示し方等に関して質疑され、適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。